

放送ストリーミング情報収載

放送ストリーミング情報【2023No.286】(HP 収載)

分類：ネットストリーミング

局等：Digital Concert Hall

作曲家：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

曲名：ミサ曲ハ長調《戴冠式ミサ》K. 317

演奏：キリル・ペトレンコ指揮ベルリンフィル

関連サイト：<https://www.digitalconcerthall.com/ja/concerts>

2023年5月1日スペインのバルセルナにおけるヨーロッパコンサートの演奏です。



ミサ曲ハ長調《戴冠式ミサ》のソリストと合唱隊は下記のとおりです。

ルイーザ・オルダー(ソプラノ)

ヴィーブケ・レームクール(アルト)

リナード・フリーリンク(テノール)

クレシミル・ストラジャナッツ(バスバリトン)

カタルーニャ聖歌隊(合唱)

その他に下記が演奏されました。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 交響曲第25番ト短調 K. 183

ヴァレンティン・シルヴェストロフ

混声合唱とアカペラのための《ウクライナへの祈り》

カタルーニャ聖歌隊

武満徹 弦楽のためのレクイエム

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

モテット《アヴェ・ヴェルム・コルプス》K.618

カタルーニャ聖歌隊

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

モテット《エクスルターテ・ユビラーテ》K. 165

ルイーゼ・オルダー(ソプラノ)

今回も PC 経由で再生してみます。

今回も、Brooklyn DAC+に仮想アースの Crystal E が、DA-3000 に自作の仮想アースが使用されています。また、仮想アース Crystal Ep の導入(7)で報告したように Crystal EpY を Sonica DAC のアース端子に接続しています。

今回も、再生経路の仮想アースに加えて、電磁波吸収テープ NRF-005T の導入(17)で報告した LAN ケーブルへの NRF-005T の適用を行っており、BPODCH の再生時には、ルーター/スイッチングハブ間およびスイッチングハブ/PC 間の LAN ケーブルへの処理が関係しており、さらに電磁波吸収テープ NRF-005T の導入(18)で報告した PC から Sonica DAC までの USB ケーブルや SDIF 伝送のクロックケーブルと BNC デジタルケーブルも NRF-005T の処理を行っています。なお、今回からアンプとスピーカーの間にスピーカーアキュライザーSPA-7 を介在させており、PC には Crystal E Jtunr を、スイッチングハブには LAN iSilencer もセットしています。

さらに今回からスピーカーアキュライザーの導入(13)で報告したスピーカーアキュライザーの接続を替えています。

本公演は、日本時間 18:00 からのライブ配信ですので、ライブで楽しみました。

今回のヨーロッパコンサートはバルセルナのガウディ設計のサグラダファミリアにおける演奏で、モーツァルトの交響曲第 25 番以外は宗教曲です。サグラダファミリアの内部の美しい画像が受信できましたが、スペイン出張時に外部から見学し、模型を買ってきましたが、内部のライブ画像は初めてです。

モーツァルトの交響曲第 25 番はお馴染みの曲です。

シルヴェストロフの混声合唱とアカペラのための《ウクライナへの祈り》と武満徹の弦楽のためのレクイエムは、ウクライナの犠牲者を悼む趣旨があるようです。

モーツァルトのモテット《アヴェ・ヴェルム・コルプス》は、お馴染みの曲で、アナログ盤が手元にいくつかあります。

モーツァルトのモテット《エクスルターテ・ユビラーテ》は、ハレルヤのくだりが、オルダーのソプラノで伸びやかに響きます。

インターミッションの後、お馴染みのモーツァルトのミサ曲《戴冠式ミサ》の演奏となり、迫力ある演奏が展開しました。

音質的には、残響が長く、直接音が明瞭でないところがありますが、合唱などは残響が豊かで効果的です。

このようにリアルタイムで遠隔地の演奏が、仮想アースや LAN iSilencer やスピーカーアキュライザーの効果で楽しめることはありがたいことです。

演奏の際に受信した画像を下記に示しておきます。





以上